

事業名 : 心諒尼を学ぶふるさと交流事業

団体名 : 野村区

1 事業内容

日時 令和5年6月から令和5年12月
場所 朝来市和田山町野村区内
内容 小山弥兵衛・心諒尼物語パンフレットの作成
心諒尼を学ぶ会及び交流会
壱岐市箱崎小学校・東河小学校交流会参加

【事業経過】

月 日	実施内容	場 所	参加人数
6月30日	作成委員会を開催	野村公民館	8名
8月1日	作成委員会を開催	野村公民館	8名
8月13日	心諒尼を学ぶ会	野村公民館	約20名
8月13日	ふるさと交流会	野村公民館	約150名
9月3日	作成委員会を開催	野村公民館	8名
10月5日	壱岐市との交流会	東河小学校及び水月院	約50名
12月3日	作成委員会を開催	野村公民館	8名

2 事業の効果

(1) 団体（組織）内の効果

子どもたちが、野村区の歴史を学び、野村の歴史に誇りを持ち、ふるさと愛が醸成された。壱岐市の箱崎小学校に、東河小学校の児童24名が訪問し、貴重な体験と交流を進めた。

子どもたちのみの研修であることから、自立心とふるさとの良さを実感できた。

交流会は、野村区だけでなく、他地域からも多くの方が参加され、多様な交流が進めることができ、野村区の良さを広めることができた。

野村区の取り組みの良さが認識され、今年4月以後に、野村区に4戸の移住者を獲得できた。移住者の皆さんは、野村区の取り組みに感動をされていました。

(2) 地域への波及

壱岐市との交流会の取り組みが広まっており、若い家族の方が東河地区に多く移住されています。東河小学校の児童数は、50年前と比較してもほぼ同じ児童数であります。20年前との比較では、増加しているのが、東河地区のふるさと教育の良さが、地域の波及しているためと考える。

野村区の移住者のうち、1件は今年赤ちゃんが生まれた若い夫婦でした。

今後は、ふるさと教育を進めていくうえで、活用できるパンフレットが完成しましたので、朝来市教育委員会、文化財課、東河小学校等に寄贈し、ふるさと教育の推進に寄与します。

3 協働の相手方

朝来市教育委員会文化財課、東河小学校、東河地区協議会、円明寺、壱岐市交流協会
パンフレットの内容確認（読み方や表現方法等）

4 今後の課題等

(1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等

壱岐市との交流事業を進めるため、文部科学省の夢基金の活用を図った。
ふるさと交流会は、今後も継続していくため、参加者から負担をいただき、区からの負担を可能な限り抑えた。
朝来市に広めていくために、教育委員会等にもパンフレットを配布し、ふるさと教育の教材に使っていただくようお願いしている。

(2) 地域活動を拡大していくための工夫等

子どもたちだけの交流にとどまらず、経済交流も進め地域の歴史を再認識していただき、ふるさと愛の醸成を進める。
パンフレットを活用し、野村区の歴史を多くの方に学んでいただき、壱岐市との交流事業が今後とも引き継がれていくことを進める。
朝来市の地域振興推進課等の連携も深めていく。



5年8月1日 パンフレット作成業務



5年8月13日 ふるさと交流会



5年8月13日 心諒尼を学ぶ会



5年10月5日 壱岐市との交流会